

## 第2回 上牧町第5次総合計画審議会 会議録

【日 時】平成28年4月25日（月）14:00～16:00

【出席者】18名

【欠席者】7名（杉本委員、福井委員、遠山委員、竹島成委員、安居委員、萩野下委員、木田委員）

【傍聴人】2名

【事務局】町職員：5名（爲本部長、松井課長補佐、俵本係長、野村主査、日高主事）  
コンサルタント：2名（ランドブレイン株式会社 山北、月山）

### 1. 開会

中山会長あいさつ

- ・審議会は久しぶりです。総合戦略の委員であった方はこれまで何をしていたかご存知だと思いが、これまで地方創生の関係で上牧町の将来の展望や対策について話し合ってきた。
- ・総合計画は町全体の包括する計画になる。久しぶりなので進捗状況について事務局から説明があるが、集中して議論して上牧町の総合計画をご審議いただければと思う。

事務局報告

- ・上牧町自治連合会会長が変わられたことにより、吉田義男会長に新委員として委嘱している。
- ・井尻常正委員につきましては、農業委員会会長というお立場で、引き続き委員を委嘱させていただくこととなっている。

### 2. 議題

#### (1) 策定進捗状況について

事務局： <策定進捗状況について説明>

会長： 事務局が中心となった調査とその結果から導き出した戦略課題をまとめている。調査結果は届いていると思うが、調査に対する質問でもよいですし、戦略課題に対してでもよいのでご意見をください。

川本委員： 総合戦略と総合計画の関係はどのように考えればよいのか。

事務局： 去年度に総合戦略を策定したが、本来は総合計画を策定してから総合戦略を策定するのが基本。上牧町の場合は総合計画策定のタイミングが総合戦略策定のタイミングと逆になってしまった。  
総合戦略は人口減少の対策計画であり、総合計画は町の施策すべてをまとめた計

画であることから、総合戦略を総合計画の一部と捉えていただきたい。

なお、上牧町の人口フレームについては総合計画の人口フレームに引用したいと考えており、総合戦略の内容についても総合計画に反映させたいと考えている。町広報で配布させていただいた資料は参考資料として捉えていただければと思う。

川本委員： 公共交通の不便さについてはどのようなことか。

事務局： 鉄道や路線バスの時間帯などを意図している。

路線バスはかなりの数を充足できているが、住民にとっては身近なところにある交通手段や鉄道駅が無いことからアンケート調査等では公共交通について課題との回答が多い。

町の取り巻く環境を踏まえて、町民のニーズや町の取り組みを総合的に加味して検討していきたいと考えている。

会長： 公共交通については不満なところ、今後の課題として挙がっているが、戦略課題の「住民が安心して暮らせる環境の整備」についてはどのようなことをイメージしているのか。

事務局： アンケート調査の結果で、これからの上牧町がどのような町になればよいかという設問に対する回答として、上牧町の安全防犯に特化して安心して暮らせる町という回答が多いことから、「住民が安心して暮らせる環境の整備」と記載させていただいた。

会長： 町民ニーズとしては高齢者関係や医療について意見が多い。今後、高齢化が進むこととの関係について、戦略課題の関係はどのようなようになるのか。

事務局： 「住民が安心して暮らせる環境の整備」「幅広い世代の住民と行政が～」に関係すると考える。

なお、本日いただいた意見は庁内検討の題材とさせていただきたい。

堀内委員： 財政運営に関する考え方について戦略課題から抜け落ちているように思う。戦略課題は基本構想を検討するうえで一番大切な目録になる。

施策動向調査シートの行財政についてみると今後は計画的な財政運営と整理されているが、本日の資料の戦略課題には財政運営について記載がない。

戦略課題については専門部会、策定委員会、審議会の流れで検討することになるが、今後の進め方についてご説明いただき、戦略課題の中の財政運営についてご意見いただきたい。

事務局： 今後の進め方については議題2で説明させていただこうと思っておりましたが、先に今後の進め方について説明させていただく。  
<基本構想作成に向けた流れについて説明>

事務局： 財政運営についても戦略課題の検討材料として専門部会に報告したいと考える。施策動向調査シートは、このシートをもとに基本計画を検討していくための資料であり、基礎調査として扱う。

堀内委員： 施策動向調査シートに計画的な財政運営が記載されながら、戦略課題に反映されていない経緯を教えてほしい。

事務局： 本日の資料の戦略課題は基礎調査をもとに取りまとめた事務局案である。今回の審議会後に専門部会、策定委員会を開催し、戦略課題（案）を検討していきたい。

堀内委員： まちづくり基本条例は総合計画より上位に位置づけられるが、今後の財政運営について明記されている。まちづくり基本条例と整合させるには、明確に位置づけなくてはならない。  
戦略課題については住民要望を踏まえた説明があったが、すべてを解決することは難しいため、優先順位をつけて取り組むことになる。一方で、取り組むにも財政計画が必要不可欠になる。財政を踏まえた戦略課題を検討しなくては絵に描いた餅になり兼ねない。事務局の見解を聞きたい。

事務局： 戦略課題はこれまでの結果を踏まえた事務局案である。審議会のご意見、庁内組織の検討を経て、戦略課題（案）を設定していきたい。  
財政運営についても大切だと認識しているが、どのように記載するかはご意見いただきたい。今の財政状況を踏まえて盛り込んでいきたい意向はある。

会長： この資料は5月以降の流れであることから、今後の進め方の資料となっている。

会長： 施策動向調査シートの「16-2 計画的な財政運営」に平成20年に早期健全化団体になったが、財政健全化計画を策定したとあるが、財政状況が立て直されてきていると理解してよいか。

事務局： 早期健全化団体からは脱却できているが、今後も厳しい財政状況であることは認識している。

会長： 財政運営については委員から意見が挙がっているということで庁内検討に活か

してほしい。

川本委員： 国の政策の方向性も財政に関係すると思う。基本的なベースを知りたい。

東委員： UR住宅の敷地内へはカードかコインがないと自動車は敷地内に入れない。しかし、住民は高齢化が進行し、外出時にタクシーを利用しようとしても敷地外に移動しないと利用できない。UR住宅の住民からは、タクシー事業者と連携して団地内に入れるようにしてほしいという話を聞いている。  
審議会資料については管理しやすいように日付をつけてほしい。

高橋委員： 今年度、上牧第二中学校への進学者のうち 20 名は学区外の中学校に進学した。個人的な理由もあると思うが、他町の中学校への越境進学も聞いている。子育てする保護者への支援も必要だが、教育・学力面で町外の学校を希望されてはよくない。また、上牧町内には高校がないため、鉄道駅までバスを利用することになるが公共交通の面では不便になる。子育て、教育について、成長するに伴って住みにくくなる現状は課題として挙げてほしい。

藤井委員： アンケート調査の 26 ページに水道料金が高すぎるという意見がある。生活する上では大きな課題になると思う。この件について町としての考えを教えてください。

事務局： 水道料金については担当課に確認する。

吉田委員： 交通機関の不便さが大きく取り上げられているが、公共交通の利便性を改善することは反対に渋滞の解消や道路の拡幅など新たな課題が発生する。そのようなトータルバランスを踏まえて検討する必要があると思う。

井尻委員： 住民の意見として公共交通の改善は前から挙がっているが、鉄道駅があるまちでも不便なことはあると思う。公共交通の詳細については庁内で十分に検討していただきたい。

宮城委員： 先ほどの上牧第二中学校に 20 名の進学がなかった件について教育委員会からの立場からご説明させていただくと、私立中学校への進学や転出もあるが今年度より河合町・広陵町・上牧町の 3 町で部活動（ラグビー部、剣道部）の越境進学が可能となったことも要因と考えられる。教育委員会でも検討したが、これまで頑張ってきたスポーツを中学校でも頑張してほしいという意味で取り組み始めた。なお、そのような生徒の住民票は変更ない。

富木委員： 戦略課題の「住民が安心して暮らせる環境の整備」については幅広い意味になっている。アンケート調査において将来のまちのイメージとして「障がい者や子ども、高齢者を大切にするまち」との回答が多く、実現する取り組みとしても「高齢者サービス」が上位に挙がっている。また、施策動向調査シート「5-2 マンパワーの育成・確保」については、行政だけではなく住民の人材育成・発掘に努めるとあるが、達成度はC、今後の方向もCとなっており、大きな課題と考えられる。「5-3 地域ぐるみのサポート」についても同様にCとなっている。このような状況において、戦略課題の中で高齢者対策についてどのように具体的にどのような形で盛り込まれているのか。

事務局： 委員の皆様のご意見から、現在の戦略課題の表現ではわかりにくいと思われるため、審議会のご意見を専門部会でも報告させていただき、検討・修正していきたい。  
高齢者対策については専門部会でも協議し、指標となるような基本理念、政策テーマを検討していきたい。担当課では人材の育成・確保について地域ケアシステムの検討もしており、第五次総合計画でもその点については重要な位置づけになると思う。

小島委員： 先日の熊本地震発生をうけ、防災についても注目する必要があると思う。  
施策動向調査シート 4-2-2 の防災意識の啓発については今後の取り組み方向はもっと高めなくてはならないと思う。自主防災組織で備品を備蓄しているがすべての住民の分は貯蓄できておらず、住民はそのことを知らないと思う。また、震災発生後の取るべき行動についても知っている住民は少ないと思うことから、住民にも見えるようにしてほしい。「住民が安心して暮らせる環境の整備」には防災についても含まれると思うが、もう少し防災について重みを置いていただきたい。

鶴谷副会長： 防災に関しては備蓄などの身近な近い視点の整備をされがちだが、広域の視点の防災も必要に考える。備蓄などの近い視点の対策はいずれ不足することが考えられることから、遠方の自治体との姉妹都市を結んでおけば対応可能になるのではないか。戦略課題に「広域連携による地域の魅力創出」とあり、観光や産業振興等で広域連携が考えられているかもしれないが、防災・医療・福祉の観点からも広域連携は必要に思う。遠くて支えてくれる相互的な関係の構築も視野に入れ、広域連携について工夫したほうがよい。

会長： 戦略課題の位置づけについて、基本構想の政策テーマと基本計画の大項目がリンクしてくると思う。戦略課題は個々の施策テーマに貫かれるような課題やピンポイントではあるが、上牧町の将来が決定的に変わるものが戦略課題になると思

う。戦略課題の定義・位置づけは明確にしておく必要がある。

仮に戦略課題をそのような位置づけにするとすれば、最も重要なのは総合戦略でも議論になった 10 年間で上牧町の出生率や転入をどのように増やすかが上牧町の将来を考えると極めて重要な課題であり、これを失敗するとそのほかの施策を取り組んでも将来の上牧町は厳しい状況になると思われる。子育て支援や地域愛に関わらず、結婚、出産、教育、仕事など、上牧町のまちづくり全てに関わることであることから、5 番目の戦略課題が今後 10 年間で一番重要だと思う。

上牧町の強みは大都市に無い小規模なまちであり、行政や事業者、住民が一緒になってまちづくりに取り組める、様々な人が連携してまちづくりに取り組める規模だと思う。これは様々な政策テーマを取り組むうえで関係してくる。

ピンポイントではあるが極めて重要なのは交通だと思う。交通はテーマ的に移動手段の確保であるが、これだけ住民アンケートから意見・要望がでている以上、今後 10 年間で上牧町がどのように取り組むかは重要だと思う。

また、広域連携について、学校やクラブ活動、観光、交通にしても、上牧町だけでは解決できない課題もあると思う。地域、自治体の枠を超えて解決していきたいという考え方は全ての施策に関わってくると思う。

高齢者対策、防災の課題については個別の政策テーマになるが、団塊の世代は 10 年後に後期高齢者になることから、それまでに地域で高齢者を支える仕組みを整えることが必要に思う。全体的な戦略課題に位置づけるか、個別の政策テーマに位置づけるかは今後検討が必要。

防災もひとつの政策テーマではあるが、自然災害が発生して乗り切れなくては、上牧町は大変なことになる。防災についても全体的な戦略課題に位置づけるか、個別の政策テーマに位置づけるかは今後検討が必要。

戦略課題をどのように位置づけるのか、今後 10 年で上牧町にとって極めて重要な課題であることから、専門部会、策定委員会では十分に議論していただきたい。

## (2) 今後の進め方及びスケジュールについて

事務局： <今後の進め方及びスケジュールについて説明>

各委員： (意見無し)

中山会長： 何か意見があれば事務局にお伝えください。

## 3. その他

各委員： (特になし)

## 4. 閉会

以上